

実践と発見

校長 大谷 慎也

小暑が近づき、七夕飾りの見られる頃となりました。今月は1学期のまとめの時期となります。先月は、まず、1・2年生の校外学習や3年生の修学旅行が実施されました。各学年とも、梅雨入り後ではありましたが、何とか天候に恵まれ、実行委員を中心とした生徒の活躍により、多くの成果を得ることができました。また、過日の全校集会では、6月1日(土)から7日間を中心に開催された「さいたま市中学校総合体育大会」をはじめ、通信陸上競技大会等で入賞した運動部の生徒を表彰しました。さらに、生徒会本部や各学級、部活動では、いじめ防止に向けたスローガンとポスター作成が行われました。よりよい学級・学年・学校づくりの機運を高める1か月となりました。

さて、新聞の投稿欄に中学生のつぎのような記事がありました。

「日本人は外国人に比べて積極的でないとよくいわれる。私は本当にその通りだと思う。日本人は周りから自分がどう思われるかを気にしすぎるあまり、思いやりの心があってもそれを行動に移せずにいる。バスや電車の中で席を譲りたいと思っても、断られて気まずくなるのがいやで声をかけられない。また、困っている人に声をかけたくても、うまくいかなかったらどうしようと、悪い方に想像するばかりで行動に移せない。そして最後に残るのは、いつも『後悔』の二文字である。日本人はそんな悩みを抱えている人が多いと思う。誰かの『実践』によって、積極的な行動へつながるのだろう。私がその一人になれるよう、心がけていきたい。」(「東京新聞」より)

ここで、6月24日(月)から2泊3日で実施した修学旅行での数々のエピソードからひとつ紹介します。第2日目。生徒は、班別で企画した京都市内外の見学や体験学習を行いました。交通手段は、主に徒歩とバスです。私も巡回指導に際し、バスを利用しました。この時期は修学旅行生ばかりではなく、海外からの観光客も大勢京都を訪れます。少々込み合っている車内では、日本語・英語・フランス語・中国語・韓国語等の多言語が耳に入ってきました。ある停留所で一般市民と思われるご高齢の方が乗車してきました。車内の後部にいた私が何気なく視線を向けると、座席にいた二人の中学生が立ち上がり、席を譲りました。その光景に感心していたところ、さらに、新たな発見。席を譲った中学生は、本校の生徒でした。新聞に投稿した中学生と相通じる思いやり。実は、21日(金)の事前集会で、日頃学んだことの実践と新たな発見の3日間にしてほしいと伝えただけでした。今でも何とも言い難い、温かいものが胸に宿っています。

残すところ3週間足らずで夏季休業となります。学期末試験終了と同時にノートやワーク・作品等の提出が随時行われます。ホームルームや学年集会等で学習や生活に関する総括を行います。平素の授業を含め、これらをもとにした学習状況についての評価・評定の結果を終業式当日に通知表にてお知らせいたします。また、夏休みが健康で安全に過ごせるように注意喚起します。さらに、学校図書館での本の貸し出しや各種コンクールやコンテストの応募について紹介します。これらを踏まえて、生徒一人ひとりが1学期のまとめと充実した夏休みへの準備をしっかりと行って終業式に臨めるように指導に当たります。中学校生活は3年間ですが、それぞれの成長の段階で、取り組んでみたり、身に付けておかなければならなかったりすることがあります。保護者の皆様には、各学年の保護者会や学年だより等を通じて職員から説明があります。どうか、お子様の努力の成果を褒めていただくとともに、期待感をもって誤りや失敗には助言や励ましをお願いいたします。